

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成20年7月24日(2008.7.24)

【公開番号】特開2002-361069(P2002-361069A)

【公開日】平成14年12月17日(2002.12.17)

【出願番号】特願2001-175536(P2001-175536)

【国際特許分類】

B 0 1 J 3/00 (2006.01)

A 6 2 D 3/00 (2007.01)

B 0 1 J 3/04 (2006.01)

B 0 1 J 19/00 (2006.01)

B 0 1 J 19/26 (2006.01)

C 0 7 B 35/06 (2006.01)

C 0 7 B 37/06 (2006.01)

C 0 7 B 61/00 (2006.01)

C 0 7 C 25/18 (2006.01)

【 F I 】

B 0 1 J 3/00 A

A 6 2 D 3/00 Z A B

B 0 1 J 3/04 A

B 0 1 J 3/04 B

B 0 1 J 3/04 C

B 0 1 J 19/00 B

B 0 1 J 19/00 3 0 1 A

B 0 1 J 19/26

C 0 7 B 35/06

C 0 7 B 37/06

C 0 7 B 61/00 B

C 0 7 C 25/18

【手続補正書】

【提出日】平成20年5月19日(2008.5.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 5 0 】

本実施形態例では、温度制御装置 3 2 によって反応器 1 2 内の温度を 6 0 0 に制御することにより、P C B を含む被処理液を超臨界水処理により完全に分解して処理液の P C B の残留量を 3 p p b 以下に抑えることができる。

また、チタン合金層 1 2 b と酸化イリジウム層 1 2 c との複合耐食層が、反応器 1 2 の耐食層として確実に機能する。また、仮に、反応器 1 2 内の温度が 4 0 0 以下に低下しても、酸化イリジウム層 1 2 c が表層にあるので、腐食が進行するようなことは生じない。

中和急冷部 3 0 は、酸化イリジウム層 4 7 で被覆されているので、腐食が進行するようなことは生じない。万一、酸化イリジウム層 4 7 が腐食しても、温度が高い通常の状態では、チタン管壁 4 6 が耐食性を維持し、逆に、温度が予期せずに例えば 4 0 0 以下に低下した状態では、チタン管壁 4 6 は腐食されるものの、その外側のタンタル管壁 4 4 が耐

食性を維持する。